

# (4) 鳥獣被害防止対策とジビエ利活用の推進

○ 鳥獣被害は直接的な農作物被害のほか、営農意欲の減退や生活環境の悪化等、農村における深刻な課題となっていることから、鳥獣被害の防止やジビエ利活用の促進に係る取組等を支援します。

- ・ 地域ぐるみで行う野生鳥獣の被害防止対策を支援
- ・ 捕獲した鳥獣を地域資源として有効活用する取組を支援

## 鳥獣被害に対する地域ぐるみの取組支援

- ・ 鳥獣被害対策実施隊の設置・体制構築を支援
- ・ 地域の捕獲人材の確保・技術向上の推進を支援
- ・ 有害捕獲による捕獲活動経費を支援
- ・ 鳥獣の侵入を防ぐための侵入防止柵の設置を支援
- ・ 農村集落に鳥獣を寄せ付けない環境整備を支援
- ・ ICT等の新技術を活用した効率的な被害対策を支援

### 協議会等の取組へ支援

総合支援事業 (推進事業)	推進体制の整備、実施隊体制強化、捕獲サポート体制の構築、生息環境管理等に要する経費を支援	定額、1/2
総合支援事業 (整備事業)	侵入防止柵、焼却施設、捕獲技術高度化施設等に要する経費を支援	定額、1/2
緊急捕獲活動 支援事業	有害鳥獣の捕獲活動、埋設作業・運搬等に要する経費を支援	定額

### < 鳥獣被害対策実施隊の活動例 >



捕獲活動



侵入防止柵の設置

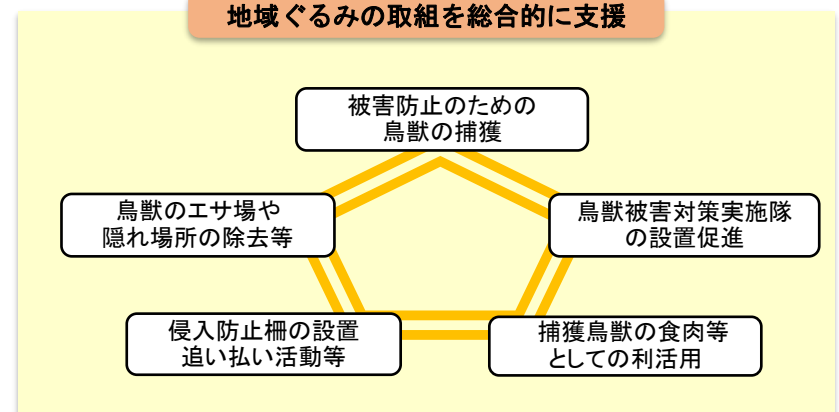


緩衝帯の設置前



緩衝帯の設置後

## 地域ぐるみの取組を総合的に支援



## ジビエ利活用拡大に向けた取組支援

- ・ 捕獲鳥獣を有効活用する施設整備を支援
- ・ 処理加工施設の衛生管理向上や販路拡大に向けた取組を支援
- ・ ペットフード商品の開発に向けた取組を支援
- ・ 担い手確保・育成のために実施する処理加工技術等の研修を支援
- ・ 在庫管理などの情報管理を効率化するICTシステムの導入を支援

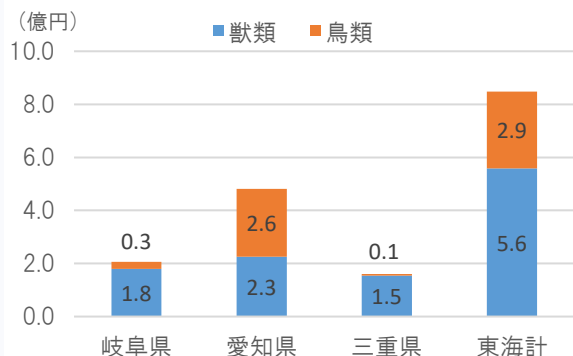
### 協議会等の取組へ支援

総合支援事業 (推進事業)	販売拡大支援、食肉利用等施設の人材育成等に要する経費を支援	定額、1/2
総合支援事業 (整備事業)	食肉利用等施設に要する経費を支援	1/2

## 東海地域の農作物被害金額の現状

令和4年度の被害金額は8.5億円で、その内訳は獣類5.6億円、鳥類2.9億円。

被害は、シカ、イノシシ、サルによるものが大半であるが、愛知県では鳥類(カラス)による被害が多いことも特徴。



※ラウンドの関係で合計が一致しない場合がある。

## 国産ジビエ認証制度

ジビエの食肉処理施設の自主的な衛生管理等を推進するとともに、より安全なジビエの提供と消費者のジビエに対する安心の確保を図るため、平成30年5月に「国産ジビエ認証制度」を制定。

### 【認証基準】

- 厚労省ガイドラインに基づく衛生管理の遵守
- 規定されたカットチャートの遵守
- 規定された表示ラベル記載事項の遵守
- 出荷する製品のトレーサビリティの確保

### 【認証機関】

(一社) 日本ジビエ振興協会

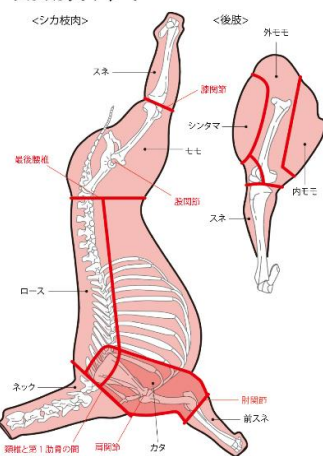
### 【認証マーク】

認証機関への使用許諾申請により、認証マークを使用することが可能。

### 【認証のメリット】

- 取引先からの信頼獲得
- 認証マークで商品を差別化
- 全国一律の認証基準で、全国的な取引には特に有利

シカのカットチャート



国産ジビエ  
認証

国産ジビエ認証マーク

## 鳥獣被害対策の取組事例【ICT活用】

三重県伊賀市

### <ICTを用いた効率的な捕獲・管理>

団体名：阿波地域住民自治協議会

農地周辺に出没する鳥獣を確実に捕獲するため、平成26年度から県試験場等と連携し、檻に侵入した獣をスマートフォン等を用いて遠隔捕獲できるICT技術を導入することにより、サルやシカによる被害を軽減。平成30年度から、地域住民と産学官が共同で活動する(一社)獣害対策先進技術管理組合を設立し、本対策の普及や柵の設置、追い払い活動等を継続。

### 一対策の効果一

	事業実施前 (H25年度)	事業実施後 (R3年度)
被害箇所数	21か所	被害なし
被害金額	32万円	被害なし

※阿波地域を対象とし、代表ポイントとして子延集落で被害調査を実施したが、令和4年度以降、被害調査が行われていないためデータなし。



## 鳥獣被害対策の取組事例【人材確保】

岐阜県揖斐川町

### <ジビエに適した捕獲技術の普及と捕獲者の育成>

団体名：株式会社キサラエフアールカンパニーズ

鳥獣による農作物等への被害増加や地域住民から捕獲による被害対策の要望を背景に、飲食店の運営などを手掛ける同社は、地域貢献のため社員が狩猟免許を取得し捕獲活動を開始するとともに、平成25年度から捕獲した鳥獣をジビエ利用する活動を展開。ジビエに適した個体を確保するため、罠による捕獲方法を指導することにより、食肉処理施設への搬入頭数が増加。

### 【処理施設への搬入頭数(シカ、イノシシ)】

事業実施前(H25年度)→120頭  
事業実施後(R5年度)→690頭

